

第4回ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル議事要旨（A班）

開催日時：2025年12月21日（日）9:00～12:00

開催場所：東大阪市役所本庁舎18階大会議室

出席者：委員18名

コーディネーター：伊藤伸氏（構想日本総括ディレクター）

議事概要

【コーディネーター説明】

1. 提案書（案）の基本的な考え方

これまでの2班の議論を踏まえ、提案は「子ども・若者が夢を叶えられるまち」を最終的にめざすために、まずは「子ども・若者が自由に夢を描けるまち」を実現するための大きな方向性のもと提案書素案として整理された。

2. 提案書素案の概要

提案書素案は主に以下の7項目で構成された。

- ① 子どもが多様な大人や職業に出会うリアルな体験機会を増やすことで、将来の選択肢を広げるきっかけをつくる
- ② 家や学校以外に、子どもがホッとできる「居場所」やナナメの関係の「相談相手」をつくる
- ③ 大人が子どもの話を「聴く」姿勢を持つために、大人の意識改革と心と時間に余裕を持てるような支援を進める
- ④ スポーツ・文化大会やアイデアコンテストなどを通じて、子どもの「やってみたい」を形にする
- ⑤ ルールとマナーを共有し、お互いの文化を学び合える「国際交流都市」をつくり、多文化共生社会を実現する
- ⑥ 地域全体で「おせっかい」を焼き合い、誰もが孤立せずに繋がり合える温かいコミュニティを構築する
- ⑦ 道路整備、交通安全対策、医療体制の充実や、インターネットや性のリテラシーを高める研修の実施など、安心して暮らせる生活基盤を整える

3. 提案書素案に対して

【会議で出た意見】

- ① 子どもが多様な大人や職業に出会うリアルな体験機会を増やすことで、将来の選択肢を広げるきっかけをつくる
- 以前、河内永和駅周辺で病院が職場見学を実施していたが、子どもが参加するには大

人の声掛けや働きかけが不可欠である。大人が主体的に関心を持ち、子どもと一緒に興味を広げていくことが体験機会の確保につながる。

- 習い事ができるような支援は本当に実現したらよいと思う。提案2の「子どもの居場所づくり」にもつながってくる。
- 学校が苦手でも、他の居場所として塾や習い事等の別のコミュニティがあると思えるのは子どもにとってよい。
- 「企業のお仕事体験」として、SNS（ショートリール）を活用して企業ごとに魅力をアピールするのがよいのではないか。お仕事体験に参加した学生がSNSで発信することでPR効果が高まり、本人のモチベーション向上にもつながる。また、再生回数などでランキング化する仕組みがあれば、企業側も取組を継続しやすくなる。

② 家や学校以外に、子どもがホッとできる「居場所」やナナメの関係の「相談相手」をつくる

- 以前は市役所周辺に商業施設があり、人が集まってにぎやかだった。親も子どもも安心して遊べるような居場所だった。今はそのような場所が減ってきて活気がなくなってしまったように感じる。行きたいと思える場所があると自然と人も集まると思う。
- 市役所や図書館の既存施設でももっと子どもたちが遊びやすくなるとよい。一般企業と連携を深めて魅力を発信すると市内就職にもつながっていくと思う。
- スクールカウンセラー等は別室にいることが多く、その場所へ行くこと自体が相談のハードルになっている。対面が難しい子どもも相談できるよう、チャットなどを活用し、いつでもどこからでも相談できる体制が必要である。
- スクールカウンセラーのことは全校集会で紹介されているので生徒のみんなが知っている。小学校から中学校に進学した頃、友達がスクールカウンセラーに行ったという話は聞いたことがある。当時は休みがちだったが今は登校できるようになった。（学生）

③ 大人が子どもの話を「聴く」姿勢を持つために、大人の意識改革と心と時間に余裕を持てるような支援を進める

- 東大阪市に住んでいる親子が全員集まって、夢や職業について大人と子どもが意見を交換する場があるとおもしろいと思う。（学生）
- 意見交換の場で、自分の家族以外の親子がどのようなことを考えているのか知ることができる場があるとよいと思う。（学生）
- いかに親が子どものために地域のコミュニティ等に働きかけるかが子どもに大きな影響を与える。

- ④ **スポーツ・文化大会やアイデアコンテストなどを通じて、子どもの「やってみよう」を形にする**
- 市内バス・電車等の費用補助をして、様々な場所に行きやすくすることは学生や高齢者にとっても交通手段の確保につながる。乗合タクシー等を活用し、安価で利用できるようにすることも有効だと思う。
 - コンテストを実施するとしたら運営をどうするのが問題になってくると思う。元々デザイナーに発注予定だったものを、予算抑えてやってみようと手を挙げた市民の子どもに依頼したり、市の施設に飾るものを募集したりすることはできると思う。
 - 小さな依頼を増やすことで少しずつ子どもたちの経験の機会を与えることができる。
- ⑤ **ルールとマナーを共有し、お互いの文化を学び合える「国際交流都市」をつくり、多文化共生社会を実現する**
- 外国人に日本のルールやマナーを伝えるだけでなく、日本人も普段からポイ捨て等しないように心がけ、お互いに良い影響を与え合えるようになる必要がある。(学生)
 - 行政のできることで、在住の外国人受入企業等との連携を深めることも大事だと思う。フェスティバル等のイベント開催にはお金がかかるが、予算のかからないことからはじめに取り組むとよい。
 - 実際に技能実習生を受け入れている会社に勤めている。よい交流になっている。
- ⑥ **地域全体で「おせっかい」を焼き合い、誰もが孤立せずに繋がり合える温かいコミュニティを構築する**
- 親が地域とかかわりがないと、その子どももまちの知らない人に声をかけられた時に安心して話すことができない。実際に危険性もあると思う。そのあたりの判断は親が日頃から伝えないと子どもはわからない。
 - 親の行動が子どもに勇気を与えて、子どもの次の行動につながると思う。あいさつができる関係性をまちで築けるとよい。
 - 地域とのかかわり方は親の考え方に影響される部分もあり、声掛け事案も懸念されるのでなかなか実現に至らないこともあると思った。地域の「おせっかい」メンバーはオフィシャルの飴等を携帯して安心材料として子どもたちに配布したらよいと思う。たすきやステッカーもあると思うが、簡単に携帯できる啓発品がよい。
 - 登校したときに挨拶できた人は先生からシールを受け取って掲示に貼り、シールがだんだん集まりあいさつが増えていくという動画を見たことがある。とてもよいシステムなので地域でもできるとよいと思った。(学生)
 - 親がそのような場に行かなかったり、無関心だったりすると、将来の選択肢が狭まってしまっていたと思う。(学生)

⑦ 道路整備、交通安全対策、医療体制の充実や、インターネットや性的リテラシーを高める研修の実施など、安心して暮らせる生活基盤を整える

- イルミネーションは行政だけでなく家庭でも取り組み、まち全体で上げられる。観光誘客にもつながり、将来は市の個性として定着すれば嬉しい。

<その他・全体に対する意見>

- 大阪府内の他自治体にもっと市の魅力をPRできるようになるとよい。幼稚園・保育園・小中高校と、保育や教育の分野は子どもを持つ大人にとって非常に気になるところである。もっとわかりやすくキャッチーな広報をするのがよいと思う。市長がサントになって市の施設を回る等して話題になる内容で子どもファーストをPRするとよいと思う。
- 学校の校舎もトイレもとても古い。他市では割ときれいになってきているように感じる自治体もある。子どもたちにとって学校が嫌だと感じる要素になればよいが、老朽化への対応を行っていただけるとよい。
- 提案の全てが実現するとよいと思うが、お金の面でも実現可能性の視点からさらに考えていく必要があると思った。

第4回ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル議事要旨（B班）

開催日時：2025年12月21日（日）9:00～12:00

開催場所：東大阪市役所本庁舎18階研修室

出席者：委員19名

コーディネーター：林恵子氏

1. 提案書素案に対して会議で出た意見・議論内容

① 子どもが多様な大人や職業に出会うリアルな体験機会を増やすことで、将来の選択肢を広げるきっかけをつくる

- 行政ができることはその他（企業）ができることのほうがふさわしい項目があると思う。行政の役割が多すぎるように感じる。工場見学や職業体験などは、本来は企業や地域が主体的に行うものであり、市役所が全部実施する形ではない方がよいと思う。行政は、企業や団体をつなぐプラットフォームや情報共有の役割を担う方が現実的ではないか。
- 職業体験の参加者を受け入れる側になったことがあるが、あくまでお客さんとして接してしまう。職業体験の際には実際の仕事の大変さも伝えられるとよいと思う。例えば保育士なら、子どもと遊ぶだけでなく、書類作成や個人対応等もある。中学生や高校生になって現実的に職業について考えるとき、就職した時にギャップが生まれないように、楽しいところも大変なところも教えるほうがよい。
- 市内大学の公開講座をもっと活用できると思う。実際に講座を受けたことがあるが、大人になってから大学の雰囲気を知るのも新鮮で、貴重な経験だった。開催していること自体あまり知られていないのもっと周知していくとよい。
- 今の教育の在り方として、進路指導で将来の選択肢を狭めていこうとする傾向なのが問題ではないか。早い段階で進路を絞る必要はないと思う。
- 「夢」があるかどうかのアンケート、半々。夢がないと答えている人も多くて悲しい。将来について考えるときに、確かに現実的な部分も必要だが、まずは「夢を持ちたい」と思える環境づくりを優先してもよいと思う。
- 子どもが成長すると夢は現実的になってくるものだと思う。小学生の頃は様々な夢を持っていても、中高生になると現実を理解していく。それは悪いことではなく、子ども自身が社会を見て考えた結果だと思う。

③ 大人が子どもの話を「聴く」姿勢を持つために、大人の意識改革と心と時間に余裕を持てるような支援を進める

- 妊娠時に市より子育て支援の情報を妊娠時に説明を受けるが、すべて覚えきれず、そ

の後の説明がない。心の余裕ができてサービスや制度を利用したいと思ったときには利用対象の時期を過ぎてしまっていることもある。「なんでも聞いてください」と言ってもらうが、初めての子育てでは何が分からないのか母親も分からないことがある。情報が足りずに孤立状態となっている人への支援がもっと必要だと思う。

- 陣痛タクシー等の交通手段の案内や補助があると心に余裕が持ててよい。
- 地域でできることの項目に「家庭と学校以外で、親子で話せる機会をつくる。」という内容があり、少し抽象的に感じる。誰がどのように取り組むのかが分かるよう、内容を具体的にした方がよいと感じる。
- 子どもが興味を示すのは一瞬で、忙しい親でも見逃さないように拾ってあげる必要がある。子どもたちに自分のやっている仕事を伝えたことで、将来の夢が変わった子どもがいた。大人たちがその思いをキャッチしていく必要がある。

④ スポーツ・文化大会やアイデアコンテストなどを通じて、子どもの「やってみよう」を形にする

- 市の施設の利用について、子どもの芸術鑑賞やイベントへの参加は申込制が多い。未就学児や小学校の子どもにはなかなかイベント情報が届きにくい。SNSを見ない人には情報が入ってこないし、気づいた時には募集が終わっていることも多い。学校や園を通じた周知や、当日急遽参加できるイベントが増えると参加しやすいと思う。
- 学校単位で芸術鑑賞や体験活動を行うことには意味がある。同級生と一緒に体験して感想を共有することでより有意義な体験になると思う。家庭の事情で普段は行けない子もいるので、学校でみんな一緒に体験できることは大切。自分自身も学生時代の芸術鑑賞の記憶が残っていて、今の趣味につながっている。
- 何かに精通したプロと出会う機会があると、子どもはすごく刺激を受ける。例えば小学生と自衛隊がかくれんぼをするイベント等、先生以外のプロや専門家の大人に出会うとよい刺激になると思う。知識だけではなく、実際に体験できることが大事。
- 失敗を恐れず挑戦するには、東大阪市全体で失敗に寛容な土台であってほしい。「夢を持つこと」自体も大事だが「夢が叶わなくて失敗しても挑戦していくこと」にフォーカスしてほしい。まちも明るく活気あふれる雰囲気になると思う。
- プロというのは有名な技術やスキルというイメージになるが、けん玉等もっと自分たちに身近な特技ですごいものもあるという気づきがあるとよい。(学生)
- 子どもにイベント運営や役割を任せる経験が必要だと思う。大きなお祭りではなくても、子ども会や地域行事で司会や企画を担当するだけでも、自信につながると思う。(学生)
- プロの技の披露に自分たちも飛び入り参加で参加できるイベントだとよいと思う。(学生)

⑤ **ルールとマナーを共有し、お互いの文化を学び合える「国際交流都市」をつくり、多文化共生社会を実現する**

- 東大阪市では外国人が増えており、行政の制度を充実させるにはわかりやすい説明やサポートが必要だと思う。(学生)
- 地域の交流は、外国人に対してもっとシンプルな声掛け等からできるとよい。(学生)
- 外国人住民に日本文化を教えるだけでなく、外国人住民に外国の文化を教えてもらえる機会があるとよいと思う。外国の文化を取り入れることができる部分もある。私たち日本人にとって学びにもなると思う。
- 一方で、ごみ捨て問題等、外国人にも日本の習慣を学んで身につけてほしいと感じる部分もある。それは今のよい環境を維持したい、守りたいという気持ちである。
- 保育園でも、日本語や漢字が分からず困っている保護者がいる。子どもが親の通訳役の役割を担っている家庭もある。行政や地域がもっと分かりやすく情報を届けて、外国人の親子の負担を軽減できるとよいと思う。

<その他・全体に対する意見>

- 情報を届ける側だけでなく、受け取る側の努力も必要だと思う。全てを行政任せにするのではなく、住民側も自分から情報を取りに行く姿勢が必要ではないか。

第4回ひがしおおさか地方創生ラウンドテーブル議事要旨（全体会）

1. 概要

これまで同じテーマのもとA班・B班の2班体制で全4回にわたり積み重ねてきた議論をもとに作成した提案書素案について、全体会にて最終確認と意見交換を行った。

2. 提案書素案に対して会議で出た意見・議論内容

- まち全体で、子どもたちが失敗しても大丈夫と思える環境を整えてあげたい。
- みんなが笑って過ごせるまちになってほしい。お笑いコンテストを実施してみるのもよいと思う。
- 子どもと若者の夢というと年齢層が幅広いと思った。叶えられることも異なるのではないか。
- 提案Ⅰが特に実現するとよいと思う。子どもたちはしっかりと今の自分のポジションや周りの環境を見ている。

3. 会議に参加した感想

- 大人として参加して、中高生の意見を聴くことができてよかった。
- 自分ひとりでは考えなかったことを考えることができた。多文化共生についての話が特におもしろくて、様々な経験をされた大人たちから話が聞けた。自分の目標や可能性を感じることができたので参加してよかった。（学生）
- 大学生になってから何かを考えるときは普段AIに頼ってしまうことも多いが、この会議に参加して、参加者の方たちがその場で考えて発言し、コーディネーターが生の声をその場でまとめていく姿を見てカッコいいと思った。これから就活が始まる中で、もっと自分自身を見つめ直そうと思うきっかけになった。
- 普段子どもと接する機会が無くて、テーマについて当事者目線で考えることが難しかった。しかし、勤務する会社で定期的に子ども向けに職場見学を開催していて、なにかクッションを挟んででもつながって関わることで、自分がこれから貢献していける部分を探していきたいと思う。
- 様々な年上の方と話して、みんなそれぞれ違う意見を持っていておもしろかった。みんなの前で発表した時も、否定せずに聞いてくれて、発表してよかったと思った。（学生）
- いままででは外国人に関わったり、市のイベントに興味を持ったりすることはなかなか無かったが、その背景を知ることでモノの見方が変わったと感じている。普段話し合うことのない大人と話して様々な意見を聴けて、この会議に参加してよかったと思う。（学生）
- 様々な人が自分の話を聞いてくれるのが嬉しくて、世代の異なる人と意見を交わせる

機会は人生の経験としてとても貴重だと思った。参加していくうちに、会議の回数が増えればよいのと思うようになった。

- 参加者の皆さんが自分事として考えていてすごいと思った。AIの活用もしながら進行するのがおもしろかった。はじめはいつもあいさつから関わりが始まると再認識した。
- 様々な価値観の方と出会えてとても楽しかった。今は社会人2年目でまだ会社の会議等で自分の意見を言うような機会はあまり無いが、この機会に自分の思いを伝える経験ができてよかった。
- 中高生の話聴く機会が無いのでこの機会があってよかった。会議のAI活用から新しい着想を得て仕事でも活用するようになって業務効率につながった。
- あまり人と話すのが得意ではないけれど、幅広い年齢層で話し合う機会があってよい経験になった。東大阪市に住んでいるからこそ感じていることを、愚痴をこぼすように言うのではなくて、みんなで自分事として考えることができてよかった。(学生)
- 普段の学校での話し合いとは違う環境で様々な意見が聴けてよかった。自分の夢に向き合うことができてよかった。(学生)
- もともと興味がなくてお父さんに勧められて参加したが、まちがよくなって自分の意見も話すことができたので参加してよかった。(学生)
- 学校で意見を交流する場所に行ってみることはあるが、同世代の集まりが多くて他の世代の方と話してみたいと思っていたので参加できてよかった。大人の方に話しかけてもらったり、相槌を打ってくれたりして嬉しかった。たくさんの人と関わっていきたいと思っているので、この会議はよいきっかけとなった。楽しい思い出になったので、この会議を開いてもらえてよかった。(学生)
- いろんな年齢層の人に自分の意見も伝えることができてよかった。来年も参加したい。